

展示室がまちなかに唐突に現れたかのような作品《space》の中で  
実験的表現を試みる若手アーティストを紹介

## 十和田市現代美術館 サテライト会場 「space」

2022 年 7 月 1 日（金）より開催



目 [mé] 《space》 撮影：小山田邦哉

十和田市現代美術館では、美術館から徒歩約 7 分のまちなかで、新たに「space」を展示室として運営します。アーティスト目[mé]による《space》は、一軒の空き家を大胆に展示室へと改装した作品です。2022 年 5 月まで企画展 Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展の出品作品の一つとして展示してきましたが、7 月より十和田市現代美術館のサテライト会場として活用していきます。これまでも当館では、個々の展示室が、まちへと広がっていくという建築構想のもと、商店街や奥入瀬溪流のホテルで展示を行ってきました。「space」は展示室そのものが作品という特殊な空間であり、そこで若手アーティストによる実験的な表現を紹介していくことで、これまでにない新たな視点や可能性を見出す場として展開していきます。

2022 年度前半の展示は、大岩雄典の個展【会期：2022 年 7 月 1 日（金）－ 9 月 4 日（日）】、続いて後半には青柳菜摘の個展【会期：9 月 17 日（土）－ 12 月 18 日（日）】を開催します。各展示の詳細につきましては、後日ご案内をお送りいたします。

前半：大岩雄典展 会期：2022 年 7 月 1 日（金）－ 9 月 4 日（日）

後半：青柳菜摘展 会期：2022 年 9 月 17 日（土）－ 12 月 18 日（日）

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

## 【 出展作家紹介 】

大岩雄典 展 会期：2022 年 7 月 1 日（金）－ 9 月 4 日（日）

[展示の詳細は 2022 年 5 月頃案内予定](#)

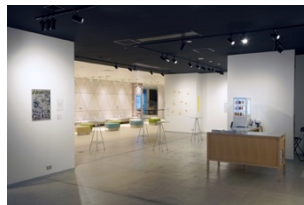
大岩 雄典（おおいわ・ゆうすけ）



撮影：中西真穂

美術家。1993年埼玉県生まれ。「空間」というものを、単なる形態を越えて、ゲーム的可能性、他人との親近感、時間との共働、契約や欲望の関係、言葉の効力、歴史・フィクションといった、存在しうる多様な相の織り合わせととらえ、インスタレーション・アート（空間芸術）の形式を再解釈する。わたしたちが他者や物質と、ときに観客や作者と、いかに「居合わせ（contemporary）」なくてよいのかを主題に、たとえば近年は感染症拡大下で変容した空間のありかたに注目して、執筆を含むいろいろな制作をおこなう。

東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程在籍。近作に、カードゲーム・インスタレーション《刑事たち伴奏たち》(2022)、作家やギャラリー同士の経済関係をジュースに変換した《margin reception》(2021)、ノイズに苛まれる話芸としての「漫才」に着目した《パカンス》(2020)など。

[euskeoiwa.com](http://euskeoiwa.com)《刑事たち伴奏たち》2022 年  
撮影：湯田沼《margin reception》2021 年  
撮影：鐘ヶ江敏一《パカンス》より漫才映像 2020 年  
出演：キヨスヨネスク・矢野昌幸  
撮影：屋上

青柳菜摘 展 会期：2022 年 9 月 17 日（土）－ 12 月 18 日（日）

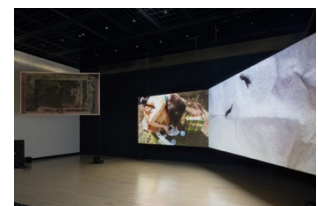
[展示の詳細は 2022 年 7 月頃案内予定](#)

青柳 菜摘（あおやぎ・なつみ）



撮影：和田信太郎

美術家。1990年東京都生まれ。ある虫や身近な人、植物、景観に至るまであらゆるものの成長過程を観察する上で、記録メディアや固有の媒体に捉われずにいかに表現することが可能か。リサーチやフィールドワークを重ねながら、作者である自身の見ているものがそのまま表れているように経験させる手段と、観客がその不可能性に気づくことを主題として取り組んでいる。2016 年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。近年の活動に《TWO PRIVATE ROOMS－往復朗読》（オンライン・プロジェクト、2020-）、「『新しい成長』の提起：ポストコロナ社会を創造するアーツプロジェクト」（東京藝術大学大学美術館、2021）など。また書籍に小説「フジミ楼蜂」（『ことばと』vol. 3、書肆侃侃房、2021）、詩集『家で待つ君のための暦物語』（2021）がある。プラクティショナー・コレクティブであるコ本や honkbooks 主宰。「だつお」というアーティスト名でも活動。[datsuo.com](http://datsuo.com)

《家で待つ君のための暦物語》2021 年  
ビデオ・インスタレーション《彼女の権利——フランケンシュタインによるトルコ人、あるいは現代のプロメテウス》2019 年  
ビデオ・インスタレーション  
撮影：和田信太郎《孵化日記 2014-2015》2016/2018 年  
ビデオ・インスタレーション  
第 10 回恵比寿映像祭「インヴィジブル」  
提供：東京都写真美術館  
撮影：大島健一郎

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

## 【 space 概要 】

開館時間： 10:00 - 17:00

休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）※十和田市現代美術館の休館日に準じます。

住 所： 青森県十和田市西三番町 18-20

観 覧 料： 無料

主 催： 十和田市現代美術館

## 《space》制作： 目 [mé]



撮影：津島岳央

2013 年活動を始める。アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。近年の活動に「非常にはっきりとわからない」（千葉市美術館、2019）、「まさゆめ」（Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13、2019-2021）などがある。

さいたま国際芸術祭 2023 ディレクター。十和田市現代美術館で 2020 年 7 月から 2022 年 5 月まで開催した Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展で、まちなかの建物を展示室に改装した作品《space》を制作。

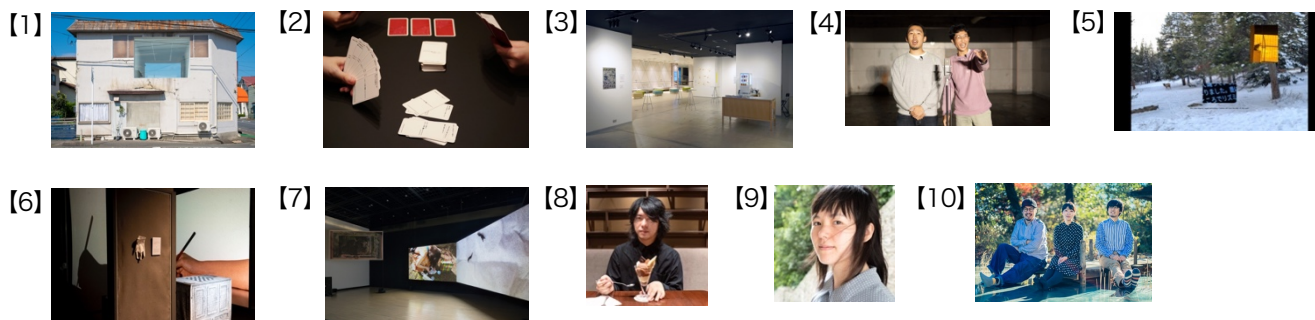
## 【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX：0176-20-1138 / E-mail：press@towadaartcenter.com

TEL：0176-20-1127 / 住所：034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



媒体名

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 ( )

御社名

御担当者名

所在地 〒

電話

メールアドレス

## 【 画像ご使用に際して 】

■クレジットは全て明記してください。

■トリミングはご遠慮ください。

■キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。

■ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com